

ジャンル別アレンジ/サウンドメイク ロック

ロックとは？

ブルース、ロックンロールから進化して生まれた。
録音技術の進歩と共にビートルズ、ローリングストーンズ等、
イギリスのバンドを中心に革新的な楽曲を発表。

PA機器の発達で大音量での演奏が可能になり、
ディープパープル、レッドツェッペリン等ハードロックが誕生。

ビジネスとして巨大になり様々なバンドが誕生。
時代の流れとともに洗練されポップになって行く。

現在はEDMが主流でブームは下火。

ロックの特徴

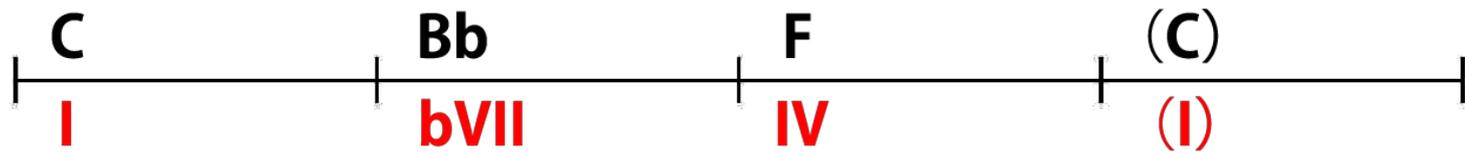
- シンプルで力強いリズム
- 歪んだサウンドの豪快なギター
- 野性的なボーカル

などが特徴。

ハードロックが台頭して行くとより荒々しいサウンド、
ハイトーンでシャウトするボーカルが主流に。

ギターは時代とともに歪み量も増えてテクニカルに。
アンプメーカーもニーズに応じてより
歪むアンプを開発して行く。

ロックのコード進行



ロック特有の進行。ブルースでは使われないbVII(Bb)を使用。これはCmから拝借したモーダルインターチェンジコード。ブルースで良く使われるミクリディアンと相性がよく、IV-IIはブルース特有の終止形。メロディにメジャー／マイナーの区別が曖昧なものが多く、bIII、bVI、bVIIはよく使われる。

【楽曲例】

- ビートルズ「ヘイ・ジュード」
- ローリング・ストーンズ「悪魔を憐む歌」
- レイナード・スキナード「スウィート・ホーム・アラバマ」
- AC/DC「バック・イン・ブラック」
- ガンズ・アンド・ローゼズ「スウィート・チャイルド・オブ・マイン」他

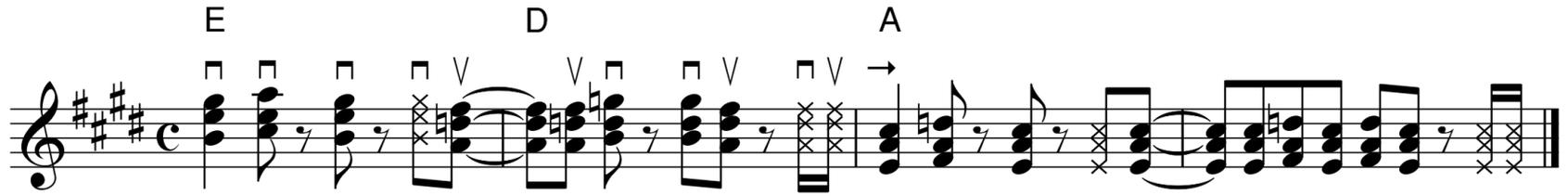
ロックのサウンドメイク



ロックの全盛期70～80年台はアンプ、エフェクターが発達し、サウンドは様々だが、ロックサウンドの変遷において、Marshallアンプ等のスタックアンプの進歩が密接に関係。

その中でもJCM800は最もオーソドックスでストレートなロックサウンド。ブースターのTube Screamerと合わせればバッチリ。ギターはハムバッカーが主流だが、ストラトもよく使われる。

ロックのアレンジパターン①



ローリングストーンズ等、黎明期のロックバンド風。テレキャスのハーフトーンが似合うがここではレスポール音源のハーフトーンを使用。ブースター、ブーストスイッチはオフ、ゲインも低め。

※ ポイント → ルートの省略。各コードごとIVの音を経過音に使用。

ダウン/アップに合わせてバラして打ち込み。ミュートやブラッシングは音源のアーティキュレーション使用。

ベロシティは全体的に強めだが、ダウン強め、アップ弱目が基本。

ロックのアレンジパターン①

キーエディター: Ample Guitar M 01
選択オブジェクトなし

グローバルトラック
エクスプレッションマッピング
ノートエクスプレッション
スケールアシスタント
コードエディット
クオンタイズ
修飾
表示
レガートを調整
オーバーラップ
次の選択まで延長
リガートを適用
MIDI イベントの長さを変更
設定した長さに変更
ペダルをノート長へ
オーバーラップ解除で
オーバーラップ解除で

Ample Guitar M 01

ブラッシング音をキースイッチで入力

音の切り際のミュート音をキースイッチで入力

ベロシティはまずまず高め、
ダウン強、アップ弱を基準に
ランダムに打つ

ロックのアレンジパターン②

E M B/D# M D M A/C# M E
H

70s後半のアメリカンハードロック風のポップな進行。レスポール音源のリアを使用。ブースター、ブーストスイッチはオンでしっかり歪ませる。

この年代は録音できるトラック数が増え、左右ダブルが多い。
ここでは完全ユニゾンでダブル。

パワーコード中心に分数コードも使用。コードトーンにならって増五度を使う。

ロックのアレンジパターン②



ダブリングの際は、左右の設定を変えないと2本に聞こえない。
アンプの設定を変えつつ、タイミングも7ティックずらす。(曲のテンポにより判断)

基礎編の「ブリッジミュート」の打ち方通りでOK。
オブリに出てくるハンマリングはピッチベンドで入力。

ロックのアレンジパターン②

キーエディター: Ample Guitar M 01
グリッド 1/16
選択オブジェクトなし

グローバルトラック
エクスプレッションマッピング
ノートエクスプレッション
スケールアシスタント
コードエディット
クオンタイズ
修飾
高さ
レガートを調整
オーバーラップ
次の操作まで延長
リグットを適用
MIDI イベントの置き換え
設定した高さに変更
ペダルをノート長へ
オーバーラップ解除で
オーバーラップ解除で

ブリッジミュートは音源の仕様に合わせて
ここでは弱めに打ってあります

実音とブリッジミュートをキースイッチで切り替えます

ハンマリングをピッチベンド
で打ちます

ロックのアレンジパターン③

※パワーコードで演奏 →

The musical score is written for two guitars, Gt.1 and Gt.2, in the key of E major (indicated by four sharps: F#, C#, G#, D#) and common time (C). The score is divided into two systems. The first system begins with a C#m chord. Above the staff, the chord progression is labeled C#m, A, and B. Gt.1 plays a rhythmic pattern of eighth notes, while Gt.2 plays a more complex pattern with power chords and bends. The second system shows a triplet of B chords. Gt.1 plays a rhythmic pattern of eighth notes, while Gt.2 plays a more complex pattern with power chords and bends.

ロックのアレンジパターン③

最近のJ-Rockやアニソンをイメージ。最近の日本のバンドサウンドでは比較的ナチュラルのドライブサウンドが流行っているので、パターン2と同じ音作り。

プレイは

- Gt1(左) = パワーコードのストローク
- Gt2(右) = Gt1と絡むようにオクターブ奏法を混ぜたプレイ

Gt1は基本通り。Gt2もパワーコードと同じ考え方でOK、5度が抜けているだけ。

オクターブ奏法の入りに全てグリッサンドが入っているのでピッチベンドで入力。テンポが速いので16分音符1個か、やや短いくらいのタイミングでスライド。このタイミングは楽曲のテンポによって判断。

休符の位置にブラッシングを入力。ストローク系のプレイでは休符でもゴーストノートのように弦に当てる事が多い。

ロックのアレンジパターン④

The musical notation is written on two staves in G major (one sharp) and 4/4 time. The first staff contains measures 1 through 4. Measure 1 starts with an Em chord and a palm mute symbol (square with a vertical line), followed by a rightward arrow. Measures 2 and 3 feature a triplet of eighth notes. Measure 4 has a double bass symbol (two 'V's) and a palm mute. The second staff contains measures 5 through 8. Measure 5 has a triplet of eighth notes. Measure 6 has a double bass symbol. Measure 7 has a double bass symbol and a palm mute. Measure 8 has a double bass symbol and a palm mute. Chord symbols are placed above the notes: Em, G, A, Em, G, A, G, F#m, F, Em, D, D#.

アニソンロック系進行。サウンドメイクはパターン2、3と同じでダブル。

ダウンチューニングのドロップDを使用したヘヴィなサウンド。
4小節目の動きなど、通常のパワーコードよりも楽に素早い動きが可能。

ダウンで弾く箇所(速いテンポでシンコペーションの「間」があるフレーズは
ダウンの方が弾きやすい)とオルタネイトで弾く箇所が分かれる。

4小節目のフレーズは休符位置にブラッシングを入れる方がリアル。

ロックのアレンジパターン④

The screenshot displays a music software interface for guitar arrangement. The main workspace features a piano-roll style grid with a vertical axis for frets (labeled C0 to C7) and a horizontal axis for time. Annotations in Japanese identify specific techniques:

- ブラッシングのキースイッチ** (Brushing key switch): A red dashed line on the C6 fret line, with a small red box highlighting a segment.
- オルタネイトストローク** (Alternate picking): Two large red dashed patterns on the C1, C2, and C3 fret lines, each enclosed in a red box.
- ダウンストローク** (Downstroke): A red dashed pattern on the C1 fret line, enclosed in a red box.

The bottom of the interface shows a velocity lane with red vertical bars representing the amplitude of the notes. The software's interface includes a sidebar on the left with various editing tools and a top menu bar with standard software controls.